

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念は、「話をよく聞き、ともに歩みます」と掲げており、それを踏まえ、「一人ひとりがその人らしく」を念頭に置き、支援している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の業務が理念に沿ったものであるか、常に振り返っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>広報紙を作成。運営推進会議等において取り組みを報告している。</p>	<p>○ 近隣社協や学校・保育園様等に広報紙を配布、事業所の取り組みを、より多くの方に知らせて頂くよう、お願いしている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>住宅地の中にあり、日々多くの方と顔をあわせている。地域の方との挨拶は、職員から積極的に行っている。</p>	<p>○ GH利用者のご家族が日に1～2組ある。現在のところ、近隣の方が立ち寄ることがないため積極的に地域のボランティアや行事等で働きかけ、機会を作りたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内や地域からの情報を収集し、祭りには利用者とともに参加している。</p>	<p>○ 今後は地域活動など、こちらから積極的に参加していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書の事項を説明する事で、理解頂けている。又、不明な事等は、随時訊ねて頂くようにしており、電話や来訪時に説明することで、理解を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス開始前・契約時、契約書の事項を説明する事とともに、苦情に関しては、特に時間をかけ説明している。些細な事でも、管理者・職員に話して頂くようお願いしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、または電話で報告している。現在利用者の金銭は預かっていない。	○	GHでの暮らしを毎月お便りとして家族に送ることを取り組みたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	13項と同じく、契約時に契約書の事項を説明する事とともに、苦情に関しては、特に時間をかけ説明し、些細な事でも、管理者・職員に話して頂くようお願いし、改善に向けて迅速な対応を心がけ実行している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例職員会議を行い、職員の意見等を運営に反映させている。	○	日々職員とカンファレンス・ディスカッションし、よりニーズに沿った援助ができるよう努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	GHでの必要な人員を確保し、日勤・早出・遅出等も支障なく行えている。諸事で人員が必要時には、小規模職員とも連携を行う事で、手厚いケアで、常に利用者へ安心感を与えられるように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	GH計画作成担当者が、法人内で異動、及び退職があったが問題なく経過。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が法人責任者と相談し、年間研修計画を作成する。それに伴い、サービス・ケアの質向上支援を行っている。又、ケアマネ・介護福祉士等資格取得に対して、法人内で手厚い支援体制もあり、制度利用が円滑に行われるようになっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>南区事業者連絡会議に出席し、交流を図っている。又他事業所等との交互訪問を随時行うことや、法人内他事業所間での話し合い・見学等も行い、サービス状況の把握や質向上となるよう取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>16項に準ずるが、管理者が常に職員と話せる関係を第1としており、些細な事でもストレス軽減できるような環境である。又、管理者も法人責任者と、常に話し合いを行い、問題等があれば早期に解決できている。</p>	<p>○</p> <p>職員とは、常にコミュニケーションがとれるような関係を作っていきたい。法人内他部署との連携も日々行っており、事務手続き等多義にわたりバックアップされているが、連絡方法等、創意工夫をすすめていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者が、職員会議や面接等を通し、職員のモチベーションアップとなるように努めている。又、参加可能なら、研修等も資料を掲示する等し、公平を旨としている。法人内責任者とも、常に話し合うなかで、個々人の勤務状態が、より公平で正確な判断ができるように取り組んでいる。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前面接時は、まず本人が不安を感じたり警戒しなくてもいいように配慮している。入所後は、信頼関係を築くために本人の意思を確認してから介助を行うようにしている。話すことが困難な利用者に対しては、表情や仕草等から自発的な行動を抑制することがないよう援助している。</p>	<p>○</p> <p>センター方式によるアセスメント、効果的なカンファレンスを行い個別ケアを徹底することに取り組みたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>問い合わせや、面接時に十分時間をとるようにしている。</p>	

京都府：グループホームケアサポートセンター吉祥院2009

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族よりの話を傾聴することに時間をかけており、事前情報等とあわせて、的確な「ニーズ」把握を心掛けている。管理者・他職員が「いっしょ」に面接する事で、一人では気がつかない事でも、少しでも感じ取れるようにしている。又、事業所以外に必要な支援はないか等も検討し、提案している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の事情により、家族だけの見学となることもある。	○ 今後は、家族に理解していただけるよう十分説明し機会を持ちたい。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当たり前のことでも、できたことに対して共に喜べるよう援助している。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時に感じた本人の変化を、オープンに話していただけるように関わっている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族のお互いへの思いをゆっくり安心して話してもらえよう努めている。	○ センター方式を家族と一緒に書き込むことにより、良い関係を築きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ馴染みのある物や家具を持ってきていただいているが、殆どの利用者が馴染みの人との交流が途切れている。	○ 家族に十分説明し、GHがパイプ役となるように取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が、利用者との間に入り、おはなし等、利用者間の関係が、馴染みとなるよう心がけている。話題も、季節や食べ物等、共感できることを心がけ、多くの方が、いっしょに過ごせるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>利用終了後も近況把握に努めている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人・ご家族から、生活史や環境等把握を行っている。利用時のケア情報を含めて情報収集し、職員間やご家族との話し合いを行う事で、「今何が必要か、希望されているか。」意向把握を行っている。又、ニーズも変化」しており、必要時モニタリングを欠かさず実施して、意向の変化把握に努めている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族やケアマネからの情報提供により、把握に努めている。</p>	<p>○ センター方式により、さらに把握できるよう努めたい。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>家族やケアマネからの情報提供により、把握に努めている。</p>	<p>○ 利用者の主治医との連携を図り、的確な指示を仰ぐようにしている。今後、地域の社会資源とも連携できるような関係作りにチャレンジしていきたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>個別性を重視した介護計画が立てられていない。</p>	<p>○ 計画的にセンター方式でアセスメントをとり、カンファレンスを行い利用者本位の介護計画を立てていきたい。</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じた見直しが出来ていない。変化があれば、家族等と連絡をとり対応しているが、計画の作成ができていない。</p>	<p>○ 計画的にセンター方式でアセスメントをとり、カンファレンスを行い利用者本位の介護計画を立てていきたい。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録用紙で、日々の変化等が容易に把握できるようになっており、必要時職員間・ご家族等と随時話し合いを行っている。</p>	○	<p>計画的にセンター方式でアセスメントをとり、カンファレンスを行い利用者本位の介護計画を立てていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族からの要望により対応しているが、十分とはいえない。</p>	○	<p>事業所内だけでなく、積極的に地域にとけこめるようにしていきたい。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>消防音楽隊やボランティアによる外部訪問等を実施している。</p>	○	<p>看護学校実習生の受け入れや、行政区の市民ボランティア受け入れも検討し、一部実施開始している。より、多くの方が集まって頂けるような事業所を目指す。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>法人内事業所や、圏域事業者等とは、密に連絡取り合い、必要なサービスを検討等している。南区事業所連絡会議で、他サービスとの連携を図っている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議等で、事例を出しケアの方向性について話をしている。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診医や訪問と連携し、必要時受診している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>法人本体が、精神科HPとして、長年にわたり認知症への治療に関わってきた。多くの症例を診てきたDrがおり、事業所としての相談等随時実施でき、又、Drからの指導もある。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医療機関の訪看STと連携を図っている。かかりつけ医への報告等、日常的に情報交換を実施している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者の入院等ある場合、可能な限り本人・家族と面会を行い、身体状態の把握を行っている。治療の予定等、本人・家族とともに、Drや医療連携室と、管理者・介護職員が話し合いを重ねている。サービスの再開や、それに伴い、必要な支援の変更も、随時行うような体制をとっている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>今後の課題として検討している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>同上。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>自宅変更や施設入所には、申請等を含め、本人・家族と時間をかけ話し合い、意向に添って対応を行っている。</p>	<p>○ 施設入所等、急な決定が多く、本人・家族も十分な気持ちの切り替えができない事も多い。管理者が施設まで同行し、家族との話し合いに参加する等し、不安の解消に努めている。サービス終了後も、タイミングを見て、面会を行う等している。人と人との関わりを大切にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症高齢者が、二重に傷つくことがないように関わり方に注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症の状態等に関わらず、まず時間をかけ十分に話をすることを、職員全員で実施している。「どうしたいか。」と聞く事により、本人の思いを聞き、自己決定を支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	開設当初から、出来る限り利用者のニーズに合わせ、ケアを組み立てている。外出・買物・趣味の実施等多義にわたるが、職員の努力により成り立っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は季節に合わすよう家族にも働きかけ、用意を心掛けています。理美容は、訪問理美容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の嗜好や旬の食材等心配りし食事を提供している。メニューは、職員が考え、調理している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別で対応している。飲酒希望の利用者は曜日を決め準備している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表に記録し、個別の排泄パターンの把握に努めている。	○	緩下剤を使用している利用者があるので、食事や飲み物等を工夫し、緩下剤の量を減らせるように取り組みたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	必ず本人に確認している。言語的コミュニケーションが困難な場合はジェスチャーや場面を移し、伝えるようにしている。本人が嫌がるような場合は、無理強いしないようにしている。現在、人員の都合上夜間入浴は行っていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中なるべく活動的に過ごせるよう支援しているが、時になかなか眠れない利用者もいる。無理に寝てもらおうとせず、話をじっくり関わっている。	○	センター方式で、しっかりアセスメントを行い個別ケアに取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	まだ十分に力を活かした援助ができていない。	○	生け花によるフラワーセラピーを週1回行っている。今後は公民館等での教室に出かける等、個別でも楽しみを持てるように取り組みたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持できるように支援していない。	○	可能な利用者は所持できるよう援助する。また所持することが困難な方は、事業所管理として取り組みたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、近所の公園やお店に出かけている。	○	居室に引きこもりがちな利用者に対し、しっかりアセスメントして取り組みたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一部の利用者は家族とともに外出をする機会があるが、その他の方は近所や車でのドライブをしている。	○	行ってみたいところについては、家族とも話し合い積極的に機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、希望はない。	○	こちらから機会を提供し、生活の楽しみとして援助していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、本人との時間がゆっくり過ごせるよう配慮している。	○	面会者が気兼ねなく、過ごせるよう環境にも工夫したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設後、身体拘束は行っていない。契約時に、身体拘束については、必要な状態を含めて、十分に時間をかけ説明を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所前の道は、交通量が多いこともあり常時施錠している。	○	施錠していることで、見落としている利用者の行動もある。今後は施錠しない方向で取り組みたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	不安や不快感を与えないよう、さり気なく観察するように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活で、ハサミ等の刃物は、保管場所を決めている。事業所でも、同じような対応を行っており、使用後の所在確認等は欠かさず行っている。	○	管理者が中心となり、危険リスクのある物品の、定期的な所在確認を行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	外部研修として、事故や各リスクマネジメント等には多く参加している。又、事業所内でも管理者を中心に研修や話し合いを随時行っている。	○	職員間での日常的な話し合いを常に行う事で、対応の変更等につなげている。又、その情報共有として、申し送りや、連絡ノート・日誌等に記載等し、事故防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対応マニュアルを基本とし、事故を想定した対策を講じている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練の実施、消火器や火災感知器の設置や、防火管理者のもと、消防計画の作成も行われている。スプリンクラー・火災通報装置等も設置されている。	○	火災時に、法人関係者への自動的な連絡システムも設置されている。今後は、地域の消防団との連携等も行っていき、より安全に努めていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自分で行える事はできるだけ行って頂くようにしているが、予測されるリスクについては本人・家族にその事を説明した上で、自分でできる力を支援していく事の理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定は毎日行っている。ケース記録等で、個々人の身体状況把握が、職員間で共有できるようになっており、家族やかかりつけ医・訪看への連絡は、迅速に実施している。	○	体調不良を訴えられない利用者が多いので、食事量・排泄・睡眠状況・行動・表情等、普段とちがうことを気づけるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在内服中の薬情報は、常に見れるようにしている。薬のセッティングや与薬時の確認は必ず職員2名で行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や乳製品・繊維食品を取り入れ工夫している。水分をしっかり摂れるように援助している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ブラッシングやうがいなど利用者に合わせた口腔ケアを実施している。必要な利用者は歯科往診や歯科衛生士による口腔ケア指導を受けている。		南口腔ケアセンターによる歯科健診を実施。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、野菜嫌いな利用者についてはジュースにしたり、調理を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルがあり、対応等行っている。事業所への出勤時等、手洗い・うがいは必ず実施している。また予防接種を実施。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒等についてマニュアルがあり、対応している。除菌等の調理器具管理についても、日々取り組んでいる。食材購入にも、新鮮な食材を毎日購入する事を徹底している。	○	調理に携わる職員は衛生チェックを実施。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を置いたり、優しい雰囲気を出せるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や花を置いている。	○	さらに季節を感じられる置物や、布などを用いて空間づくりをしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルセッティング等で、馴染みの方とお話等してゆっくり過ごして頂くよう心がけている。	○	もう少し、コーナーを区切り、環境を整えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを用意頂くようお願いしているが、家族の判断で最小限の物で入所されている方もいる。	○	利用者のために必要であるものは、家族に提案し環境を整えたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物は袋に密封し処理している。またこまめに換気をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	小柄な利用者にとって便座の位置が高いトイレがある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	言語が理解できなくても、視覚的な情報で確認できるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、洗濯物や布団を干すことしかしていない。玄関周りは花を育てている。	○	ベランダでも花や野菜をプランターで育てられるよう取り組みたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個性豊かな利用者のユーモアや、笑い声をどんどん引き出していきたいです。